(記載例）

　業績目録については、次ページの（様式２）を使用してください。また、記載順は「原著（欧文原著）」「原著（和文原著）」「総説（欧文総説）」「総説（和文総説）」「著書（欧文著書）」「著書（和文著書）」「学会発表」「その他」の順とし、それぞれ以下の要領を参考に、記載してください。

* 以下は記載例（記載要領）となります。

（様式２）

業　　　　績　　　　目　　　　録

 氏　名　福　島　一　郎

１　原　　著

１－１　欧 文 原 著

１－２　和 文 原 著

（記載要領）

・　発表年の新しい順に記載する。

・　記載は、番号（連番）、著者名（全員を記載し、本人にアンダーライン）、題名、誌名、巻、始頁－終頁、発表年、査読の有無の順番で記載する。（下記記載例参照）

・　出版予定のものについては、掲載証明を添付する。

・　論文の責任著者（corresponding author）には※を付ける。

・　主要論文（10編以内）には、記載の末尾に◎を付ける。

　　（記載例１　欧文原著）

 １．Aaaa A, Bbbb B, Cccc C, Fukushima I，○○○○○○○○○ ○○○○ ○○○○○○，△△△△△ △△△，

 47，58-64，2012．査読なし

　　 ２．Dddd D, Eeee E, Ffff F, Fukushima I※，○○○○○○○○○ ○○○○ ○○○○○○，△△△△△ △△△，

 52，72-89，2007．査読あり．◎

　　（記載例２　和文原著）

 １．福島一郎※、医大和子、医学太郎、○○○○ ○○○○ ○○○○○○、△△△△△ △△△、9，779-781，2013．◎

 ２．福島一郎、医大花子、医学二郎、○○○○ ○○○○ ○○○○○○、△△△△△ △△△、7，551-589，2007．

２　総　　説(記載方法は原著に同じ。)

　２－１ 　欧 文 総 説

２－２　 和 文 総 説

３　著　　書(記載方法は原著に同じ。)

　３－１　欧 文 著 書

３－２　和 文 著 書

４　学会発表

　　（記載要領）

・　国際学会と国内学会に大別し、番号（連番）、発表者名（本人にアンダーライン）、題名、会名、場所、発表年の順に記載する。さらに、末尾に一般発表、特別講演、招待講演、シンポジウム及びワークショップ等の別を（　　）書きで記載する（下記記載例参照）。

・　国内学会の発表は特別講演、招待講演、シンポジウム及びワークショップの発表のみ記載する。

・　国際学会あるいは国際的な学術集会については一般発表も記載する。

　　（記載例）

　　　（国際学会）

1. Fukushima I, Idai K，○○○○，□□□□Annual meeting，New York，2007.（一般発表）
2. ・・・・・・

（国内学会）

1. 福島一郎、○○○○○○○○○、第○○回日本○○会総会、東京、2007.（ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ）
2. ・・・・・・

５　その他

（レター、ニュース、プロシーディング等、上記に該当しないものを記載する。その他の記載方法は原著に同じ。）

（様式２）

業　　　　績　　　　目　　　　録

 氏　名

 （用紙が足りない場合はＡ４版縦の用紙（白紙）を使用し、ページ数を入れてください。）

１　原　　著

１－１　 欧 文 原 著

１－２　 和 文 原 著

２　総　　説

２－１　 欧 文 総 説

２－２　 和 文 総 説

３　著　　書

３－１　 欧 文 著 書

３－２　 和 文 著 書

４　学会発表

（国際学会）

（国内学会）

５　その他